



# 辻川だより

ホームページ



https://village6567.com/

第70号 [2024-Ⅲ号] 令和6年12月7日 辻川区自治会 発行

辻川公民館 〒679-2204 福崎町西田原 1228-2 TEL 0790-22-5763

年の瀬が近づきました

区長 田崎 正和

秋の取入れが終り、『天高し 屋台捧ぐる 練り子たち』から『葉書来て 笛近付きて 里神楽』へ、そして『なだらかなる 里の 山々 淑気満つ』の正月を迎えるときとなりました(以上の俳句は6隣保西關眞理子さんの「幼き日の思い出 十五句」より)。今も残る辻川の昭和の風景は私たちに安心感を与えてくれます。

さて、協議員会で半年間話し合いを続け、やっと区内集合住宅17オーナー24棟への自治会費徴収統一ルールができました。現在、集合住宅の中には区内にあるにもかかわらず自治会入りをしていないとの理由等で環境整備費や消防費を負担していないところがあります。でも住宅地からの雨水は近くに溝に流れ込み、入居者は地域の道を通じて生活しています。消防団の「火の用心」パトロールのアナウンスも聞かれています。地域の溝や道は近くの住民が溝浚えや草刈などをして維持管理に努めています。今回の新ルールは全ての受益者に自分の負担をお願いするものですが、従来から自治会入りをしている集合住宅では総じて減額になりますので、全体としては昨年度より1%余りの収入減になっています。とはいえ、この年末からの新ルール一斉適用は時間的に無理でした。来年度からの実施をめざし、まずは未徴収のアパートからオーナーへの協力依頼を始めたいと思っています。

## 協議員会は今

- 9月11月の協議員会での報告・検討内容を一部紹介します。
- ① 秋祭りの準備と反省
- ② 道普請内容確認
- ③ 次年度辻川区内要望集約
- ④ 賃貸住宅の自治会費ルール
- ⑤ 総合自主防災訓練確認
- ⑥ フラワーポットの植替
- ⑦ 年末の自治会徴収準備

## 【お知らせ】

●令和6年度中に辻川北交差点に防犯カメラが設置されることになりました。これは昨年の近隣の猟奇的な事件を受け区長会として町に要望していたもので、今年度各校区に1台ずつ設置される分が当交差点に優先されました。維持管理も町が行います。

●現公民館地の昭和10年共有登記記者10名の子孫の戸籍収集作業の進捗状況は11月現在約75%で、2月には相続調査が完了する予定(大野偉貴司法書士)とのことです。

## 行事の予定

- ◇12月15日(日) こども会 老人会 鈴の森掃除
- ◇1月12日(日) 合格祈願祭(中学PTA主催)
- ◇2月23日(日) 自主防災訓練
- ◇3月9日(日) 第4回グランドゴルフ大会

## 祭礼行事のお知らせ

- ◆1月1日～3日 正月祭り(鈴の森・恵美酒・高藤稲荷神社)
- ◆1月12日(日) 10時 冬えびす(恵美酒神社)
- ◆1月12日(日) 16時～19時 とんど(鈴の森・高藤稲荷神社)
- ◆2月2日(日) 17時30分～20時 節分祭「年越祭」歳灯
- ◆2月9日(日) 10時 初午祭(高藤稲荷神社)

## 事業報告

- ◆9月14日(土) 隣保長・各種団体役員会議
- ① 秋祭りについて
- ② 新公民館建設候補地検討
- ③ 道普請について
- ④ 令和7年度要望書について
- ⑤ 「民俗学のタビ」の振り返り
- ⑥ 総合自主防災訓練概要報告
- ◆9月28日(土) 鈴の森神社掃除(老人会・協議員)



秋祭りに向けて境内の草引きや剪定、駐車場や山すその草刈りが行われました。この活動は「全国一斉社会奉仕の日」の取り組みとして実施されました。

## ◆9月29日(日) 道普請及び雲津川等掃除

今年も秋祭りに向けて区内の街路がきれいになりました。また、9・15隣保の皆さんの手伝いで雲津川が下の写真のように、併せて登記所跡グランドの草刈りや刈り集めたゴミの処理が行われました。



## 秋祭り

今年も祭典委員会を中心に楽しい祭りをするために様々な工夫や準備が進められ、青年団と乗り子たちの頑張りで見ることができました。乗りの子の保護者の皆さんには、今年もシデ作りを担ってもらいました。



当日は、青年団の熱い思いが天まで届き、すばらしい天候に恵まれ、青宮・本宮とも

10/13 本宮の朝 鏡開き

10/12 鈴の森神社 宮出



10/13 熊野神社 宮出4台練り

に勇壮な練りを披露しました。特に本宮宮出の4台練りは見事でした。何よりも木方、棒端、青年団、消防団を中心に一致協力して臨めたこと、そして、屋台蔵周辺の皆さんのご理解、ご協力に感謝申し上げます。祭りの後の祭典委員会の反省で出た意見を一部紹介します。・法被の新旧の混合は期限を切る時期がきているのでは。

・区内の休憩場所でゴミが残っているところがあった。練り子も含め全員で片付けを。・宵宮の夜に温かい豚汁があつてよかった。



10/13 蔵入

・来年から区として、秋祭りについての従来からの申し合わせや特記事項をまとめて回収すること。

◆11月2日(土)

臨時隣保長・各種団体役員会議

主として、10月26日の自主防災組織委員会を受けて17日の防災訓練の打ち合わせを行い、安否確認タオルを417世帯に配布しました。

◆11月17日(日)

辻川区総合自主防災訓練

平成30年以来的の総合防災訓練に233名の区民が集いました。訓練の流れに沿って内容を報告すると…

- ① 全世帯参加の安否確認タオル掲示(左表)

隣保	参加/配布	隣保	参加/配布	隣保	参加/配布
1	11/13	9	23/38	17	7/10
2	7/16	10	16+/75	18	8/8
3	18/31	11	6/10	19	9/10
4	6/6	12	11/12	20	9/15
5	9/15	13	11/21	21	9/16
6	7/7	14	7/21	22	39/40
7	8/10	15	8/18	合計	248+/417世帯
8	8/12	16	11/13		



安否確認タオル



車椅子搬送訓練

②区内5ヶ所消防団による消火栓放水訓練。③避難所指定されている公民館へ避難(地震・洪水危険箇所を確認しながら。2ヶ所から模擬要援護者の車椅子誘導。3ヶ所から模擬負傷者の担架搬送)。



担架搬送訓練



消火栓訓練

④緊急対策本部に隣保長・消防団員から避難

状況・危険箇所の報告。

⑤能登半島地震被災地支援報告会(兵教委震災・学校支援チーム員の10隣保浅井信人氏)。聴衆は120名を超え、2階大広間がいっぱいに。



災害支援報告会

⑥心肺蘇生(AED)訓練/簡易担架作りと段ボールベッド・簡易トイレ作り/備蓄食体験を3班に分かれて順に体験。



心肺蘇生法講習

防災訓練後、防災組織委員会の反省会で行った意見を一部紹介します。

・要介護者を車椅子で誘導する際には、停車や散乱したがれきも想定した訓練と、お願いしている地域支援者との連携訓練も重要。



簡易ベッド作り

・備蓄食には高齢者の食へやすい粥のようなものも必要。

・大災害に備えるためにも普段から地域のコミュニケーション作りが大切である。

・小学生は簡易担架作りと体験に興味津々。訓練は皆が楽しめる内容も大切。



簡易担架作り

私の昭和の時代(第4話)

『辻川で行われた狐追』

柳田國男は「故郷七十年」に「私の子供のころ辻川には狐狩りという行事が、一月十四日の夜から翌朝にかけて行われていた」と記す。狐狩り(狐追い)とは「小正月の前夜に行う狐に象徴される害獣をムラから追い出し福を招く行事」のことで、鳥取県・兵庫県・大阪府の北部から京都府・福井県にかけて分布しているとのこと。町内では今も八千種の西大貴区・南大貴区そして鍛冶屋区の「かくしほちよじ」の中に残っているそうだ。南大貴区では五穀豊穡を願ってムラの中を回るときに、親キツネ(大人)が「キツネのオロロ」と言った後、子キツネ(子ども)が「オロオロ」と続く。鍛冶屋区では「キツネガイオロ」と一人が言い、他の人が続いて「オロロ」と繰り返す。柳田は「故郷七十年」で、國男少年が育った明治前期の「辻川ではオロロ追いという、単に理由もない行事として残っていた。オロロとは物を探するときの掛声であろうが、子供らが群れを作って、寒い夜更けの街道を村の外れまで「オロロやオロロ」と叫びながら歩くのであった」と書いている。柳田はまた「もともと日本人は狐を狡猾な警戒すべきものとしては見ず、感謝と尊敬を以て対すべき動物として信仰し、人知の及ばない、例えば豊凶を占えば、それを教示してくれるもの

と考えていた」とも記している。



出典:福崎むかし話「尾先白右衛門」

柳田は幼い頃「狐を少しも不思議なものとして思わなかったようである。氏神のある傾斜地の横手には、七つか八つほどその穴があったように思うが、一度も姿を見たことはなかった」辻川山には、今もキツネがすむ。辻川山南麓の1隣保地には毎晩のように出没し農作物が荒らされることも多い。辻川には狐に騙された民話も残る。機会があれば紹介したい。(田崎 正和)

※1 柳田は、福荷信仰は田の神への信仰から発生したとする。稲の稔り(福成り)の季節に山から下りてくる狐は、春先に山を下りて来る田の神の先導をつとめる神使とみなされていたと考える。

【参考・引用文献】  
 故郷七十年(柳田國男(1958))  
 民俗学のふるさと辻川(12話・38話  
 辻川史編集委員会(2023))  
 福崎町文化財保存活用地域計画資料  
 編(福崎町社会教育課(2023))  
 福崎町文化(第36号(2019))

編集後記

前回69号の辻川だよりの『5月19日(日) 溝普請』の記事には、6月2日の協議員作業の内容も含まれていました。訂正をお願いします。

先日の防災訓練では能登半島被災地支援の報告会が部屋いっぱいになり、「天災は忘れた頃にやってくる」。いつも関心を持っておきたいものです。(吉田 和司)